



オリーブ栽培者のための情報誌

# 九州オリーブ通信

## Vol.3

トピックス



## 日本初、KOAオリーブ大学が3月に開校!

2012年3月3日、“KOAオリーブ大学”が開校した。九州オリーブ普及協会（以下KOA）が運営する本邦初のオリーブ専門教育機関に九州各地から第1期生が集結。→P.4も参照。



▲第1期生17名と大学スタッフ、全員集合!(平均年齢61歳)



▲栽培技術修得に役立つITの講座も設置



▲専門大学ならではの充実した実習カリキュラム





# イタリア産オリーブ in 九州

# 九州で広がるオリーブ栽培の輪



## 佐賀県伊万里市、唐津市

栽培者：清水章生

植樹時期：2011年3月他



伊万里市2カ所と唐津市で栽培中。うち1カ所は佐賀県初の観光農園にしたいとのこと。愛車ベスパPXが苗木、肥料を運ぶのに役立っている。



▲元みかん畑の南斜面では200本を栽培



## 熊本県荒尾市

栽培者：荒尾市樺・海行原地域、  
荒尾建設業協会オリーブ推進委員会  
植樹時期：2011年6月



2011年7月の開設式以来、樹の成長著しい荒尾市樺・海行原地域のオリーブモデル農園。

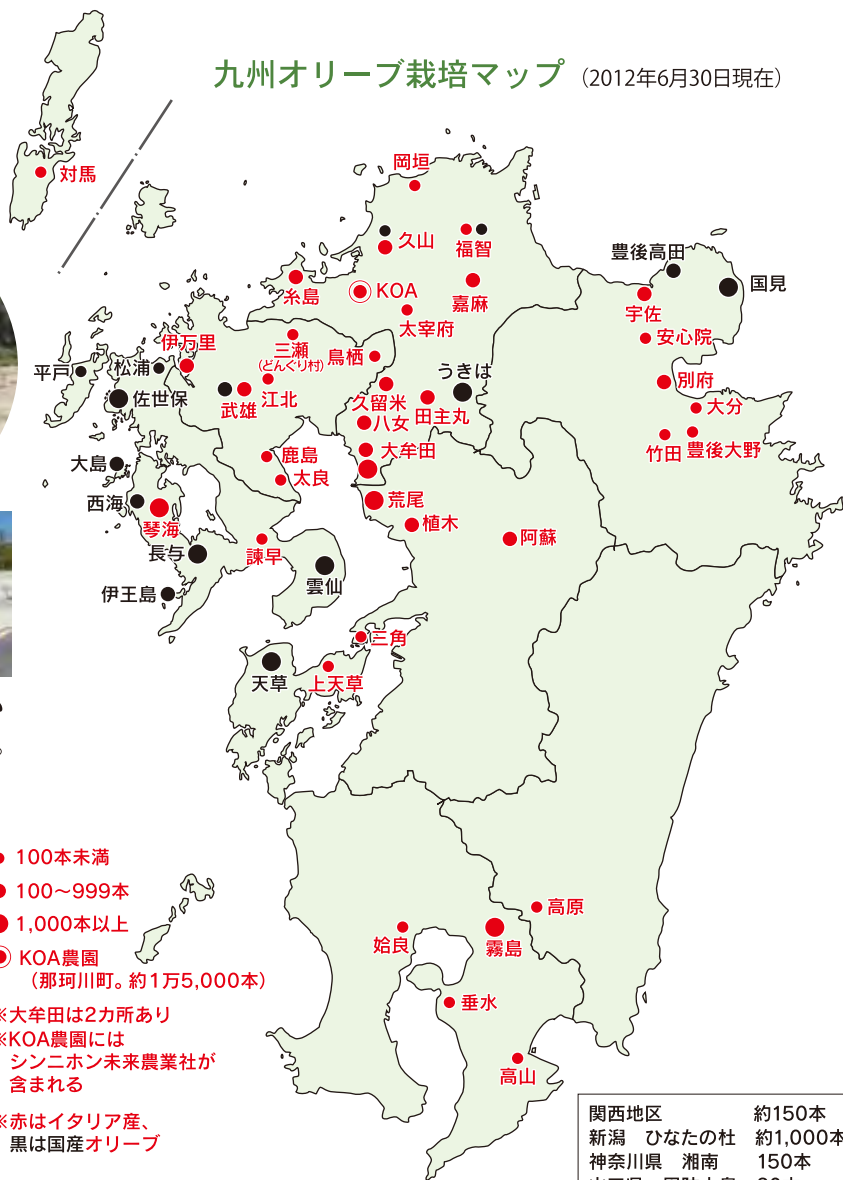


## 鹿児島県霧島市

栽培者：瀬戸口建設  
植樹時期：2011年10月



## 九州オリーブ栽培マップ (2012年6月30日現在)





## 長崎県長崎市

栽培者：濱野圭司  
植樹時期：2011年3月



▲「植樹からもう1年4カ月。人間ならヨチヨチ歩きの時期、日々成長するオリーブ樹に元気をもらっています。雑草には手を焼いていますけど……」  
(濱野)



▲長崎市琴海にある濱野さんのオリーブ園

## 福岡県広川町

栽培者：南條寛、  
長崎純義、  
庄籠敏美  
植樹時期：2012年5月

搾りたてオリーブオイルやオリーブの実の新漬けなど、オリーブ関連食品を提供するテーブルオリーブ園を目標に活動中の“オリーブ八女健康未来”。この地域に栽培者を募りながら1,000本のオリーブ栽培を目指している。



▲植え付けたオリーブの間に立つ共同栽培者3名



▲以前はぶどう畑だった日当たり、水はけのよい斜面

◀フロントイオ、レッチーノ、ペンドリーノの3品種

## 大分県大分市

栽培者：山崎 敏  
植樹時期：2012年5月

現在、大分市内の2カ所にオリーブを植えている山崎さん。

来年は合計150本を目標に活動していくという。





九州におけるオリーブ栽培技術者の育成と、オリーブに関わる人材や情報の交流の場を目的として、日本初のオリーブ専門教育機関“KOAオリーブ大学”が2012年3月に開校。

日本人好みの味でかつ安全・安心なオリーブオイルを生産し“九州オリーブ”としてブランド化を目指す。皆で学び、交流し、助け合いながら、6次化事業としての栽培から消費まで一気通貫で行える体制も作っていく。

2013年コース入学申込みなど詳細はHP参照。  
<http://www.kyushu-olive.or.jp/olivecollege/>



▲剪定を終えたオリーブの樹の前で



▲実習で植え付けた苗木に水やり



▲イタリア直送の苗の前に話に花が咲く

カリキュラムは1年コース。実習と坐学を含む講座（1泊2日）が年間4回実施される。そのほかに年間4回の栽培地視察も行う。



2012年の宿泊と坐学講座の会場は、第1回が佐賀県三瀬村の“どんぐり村”、第2回が福岡県上陽町の“みんなの館”。



▲KOA農園のビニールハウス内



▲木の温かみのある“みんなの館”





特集②

# オリーブ栽培と障がい者自立支援

テーマパークに福祉が同居する全国的にも珍しい施設“知的障がい者通所授産施設 どんぐり村”。

2012年4月14日、KOAが佐賀県三瀬村の同施設に寄贈したイタリア・トスカーナ産オリーブ2.5年生苗100本の植樹祭が行われた。



▲どんぐり村での知的障がい者によるオリーブ植樹祭（右：KOA代表）

オリーブ栽培は他の果樹栽培に対して5分の1程度の労力でよく、障がい者や高齢者の作業として適している。しかも外での作業で健康管理面でも好都合。何より、障がい者にとってオリーブがもたらす収益は他の作業に比べて付加価値が大きい。また先進性があり持続可能であるため将来自立が可能なものになる。日本財団はそこを評価して知的障がい者支援団体NPO法人ひなたの杜（新潟）にオリーブ栽培としては初の助成を決定した。



▲“ひなたの杜”の橋元代表と新潟のオリーブ



▲オリーブ栽培のための作業小屋



▲日本財団助成の苗木500本を定植



オリーブ栽培の北限かと思われる雪降る新潟で、約1,000本のオリーブを障がい者の子ども達が一生懸命育てている様子は感動的。1日も早くオリーブの実がなることを期待したい。



▲“障がい者支援オリーブネット”の大熊猛、河邊秀美、橋元雄二の各氏



# KOAが取り扱うイタリア産オリーブ苗木のメリット

## イタリア政府による、オリーブ苗木の品質保証

KOAが取り扱っているイタリア産オリーブ苗木は、すべてイタリア政府の品質証明書付きです。また、苗木の健康状態についても、もちろん厳格なチェックを受けています。

## 成木1本当たりの果実の収量と、オリーブオイルの抽出率

成長したイタリア産オリーブの樹1本から収穫できるオリーブの実の量は平均20kg、オリーブオイルの抽出率は平均15%です。日本産の平均はそれぞれ10kg、10%。大きな生産効率の差が出ると考えられます。


## 育成指導から実の買い取りまで、KOAの苗木はサポート付き

栽培講習会などで、実がなるまでフォロー。実が採れたら、ご希望の量をKOAが相場価格で買い取ります。設備使用料のみでKOA所有搾油機でオリーブオイルにすることもでき、加工、販売まで生産者の思いのまま。




たわわに実ったイタリア産オリーブ


## 2種類が加わり全10品種となったイタリア産オリーブ苗木




**●モライオロ (油用)** New  
油含有率22~25%  
良質なオイル分を含み味はフルーティ。  
果実はやや小ぶりの短楕円形



**●コレッジョラ (油用)** New  
油含有率18~22%  
果実は中型晩成種、葉は緑葉で  
やや丸みを帯びている



**●フラントイオ (油用)**  
油含有率22~24%  
病気に強く、地域対応性も高い。  
香り高い




**●レッチーノ (食用・油用)**  
油含有率25~27%  
オイルは果実の風味を含んでいて  
美味




**●タツジャスカ (食用・油用)**  
油含有率23~26%  
オイルはマイルドな味わい。  
潮風に強い



**●ペンドリーノ (油用)**  
油含有率22~23%  
オイルは果実の風味を含んでいて  
美味。花粉が多い



**●マウリーノ (油用)**  
油含有率20~21%  
オイルはくせのない味わい。  
花粉が多い



**●コラティーナ (食用・油用)**  
油含有率24~25%  
ポリフェノール含有率が高い。  
苦み辛みあり



**●レッチョ・デル・コロノ (油用)**  
油含有率18~22%  
湿地、湿気に強い。  
九州向き品種としてイタリアが推奨



**●サンタ・カテリーナ (食用)**  
テーブルオリーブ専用  
大きな実が採れる。  
比較的成長が早い



## レポート①

# 栽培者クローズアップ

現在、農業委員会に勤務する上園満雄さん（62歳）。地域おこし（グリーンツーリズム）や孫の代への贈り物という想いで、退職金の一部を使って耕作放棄地を造成しオリーブ農園をつくった。屋外での作業は健康づくりにも役立っているとのこと。

将来は隣接地にレストランを誘致して、自家製オリーブを楽しんでもらいたいという。



▲2011年11月に樹齢3年のオリーブを植樹した上園さん。当地の“オリーブ研究会”の創設者でもある



▲フロントイオ180本、ペンドリーノ20本の計200本を植付け



▲上園さん背中側の一番高い場所が将来のオリーブレストラン用の土地



▲自身が所有する7,000㎡のオリーブ農園を背景に

## レポート②

# KOA農園にオリーブの花が咲き誇る!



福岡県筑紫郡那珂川町安徳台に位置する“KOA農園”では、イタリア・トスカーナ産を中心に約1万5,000本のオリーブを栽培している。

5月下旬には、成長した木々に白くて可憐なオリーブの花が満開。今年の開花の時期は幸いにも晴天に恵まれ、順調に実が付くと予想される（右写真）。



▲イタリア・トスカーナから空輸された1.5年生苗木5,000本が並ぶ壮観な光景



▲結実。オリーブの多くの品種は自家受粉できないので、違う品種を2本以上近くに植える

## 木を見て、森を見て、立ち止まって考える。

栽培する土地を確保し、オリーブの苗を手に入れて、1本1本、思いをこめて植えていく……。九州オリーブ普及協会を通じて皆様が開発されている活動には大変敬意を抱いています。

ところで、先人の戒めの諺に「木を見て、森を見ず」とありますが、1本1本のオリーブの苗に愛情を注ぐあまり、つつい見るとを忘れてしまいがちな「森」とは何でしょうか？

例えば、九州の気候や風土、地域の人々などオリーブを取り巻く環境のすべて、そして将来像のすべてに改めて思いを巡らせてみてはいかがでしょうか。

そこには当然、将来の収穫を商品として送り出すマーケットや観光に訪れるお客様も含まれます。その一方で、オリーブの栽培にあたって様々な難題にぶつかるともあるでしょう。しかし、それらも含めて、オリーブの与えてくれる恵みと考えてみてはいかがでしょうか。えてして、その難題を生み出している原因は、本来の九州の魅力そのものにある場合が少なくないのではないのでしょうか。



九州には自然が満ち溢れ、歴史があり、伝統があり、向学心があり、進取の気性もあり、義理堅い人情もあり、豊かな恵みの宝庫です。

オリーブを「触媒」として、九州の魅力を再発見し、地域の魅力と密着した絆の象徴として後世に受け継いでいくべきもの。そういった副産物のようなものの中に、九州でオリーブを栽培する本当の価値を見出すことができるかもしれません。

今後はその可能性と魅力に満ちたオリーブの案内役として“オリーブコンシェルジュ”を育成し、将来に向けて九州のオリーブを身近な存在として広める活動も積極的に応援させていただければと考えています。



(執筆者紹介)

KOAオリーブ大学顧問  
オリーブオイル鑑定士  
緒方哲男

世界最高のオリーブオイル教育研究機関と評されるイタリアオリーブオイルテイスター機構(O.N.A.O.O.)の公式テイスター(鑑定士)であり、O.N.A.O.O官能能力選抜試験を首席で修了。イタリア本部にて研鑽を積み公式テイスター及び公式認定講師として国内外で活躍。エキストラヴァージンオリーブオイルの品質と魅力を見極める能力と感性は専門関係者から高い評価を受け、わかりやすく親しみやすい講義は一般女性からシェフまで幅広い受講生から人気を博している。

## KOAオリーブ大学が目指すもの

“KOAオリーブ大学”は、受講生がお互い卒業後も情報共有しながら「一人は皆のために、皆は一人のために」の精神でつながり続けることを目指します。

オリーブ栽培は九州では新大陸のようなものです。前例がありません。皆の経験知を持ち寄りそれをデータベース(DB)化し皆で活用する。そのためにKOAオリーブ大学では、栽培地と連携して各地の栽培情報のDB化に力を入れていきます。

考え方は天気予報会社ウェザーニューズ社と同じです。幸いなことに本体のKOAが九州で3年前からオリーブ栽培普及活動に取り組み、すでに100カ所余りの栽培地ができてきました。

この利点を活用して九州での諸所の栽培情報をオリーブ大学の卒業生に提供することで、栽培指導を的確に進めていけるようにしていきたいと考えています。

## 九州オリーブ通信 第3号

発行者: 古賀直樹

発行所: 一般社団法人九州オリーブ普及協会 編集部  
〒830-0032 福岡県久留米市東町495-1

TEL: 0942-27-7413 FAX: 0942-31-1191

info@kyushu-olive.or.jp http://www.kyushu-olive.or.jp/

平成24年7月10日発行

※ 本会報に関するお問い合わせ・お申し込みは上記までご連絡ください

## “KOAオリーブ大学”オリジナル教材の紹介



現在の日本で考えられる最も詳細な基幹テキストを使用。実習、講義を収録したDVDも完備して補講態勢も万全!